

ナヒゲーター

昨年12月末、日本と中央アジア5カ国の首脳会合が東京都内で初めて開催された。訪日したのはカザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンの5カ国大統領です。日本と5カ国首脳は、物流ルート

日本への期待
世界各地から其
158

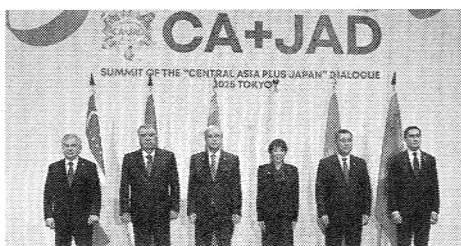
中央アジアと日本の対話

りです。

この会合はより広範な地域的重要性を提起しました。諸外国では、日本の役割は競争相手ではなく互いに補い合うものと見なす傾向が強まっています。日本は、経済協力と民間連携を強化することで、中央アジアを硬直的なプロック化や対立的な陣営に押し込めるのではなく、この地域の強靱性と多様化に貢献するものとみなされています。

今回の中央アジアと日本の関係強化は、本質的には共通の理念を浮き彫りにしていま

カザフスタンから(上)



日本と中央アジア5カ国の首脳会議

す。
それは「C5+1」(Cは

中央アジア)から「B5+1」

(Bはビジネス)へ、外交から調達経路の共有へ、影響力の行使から信頼へということかもしれません。分断された世界情勢において、この穏当でビジネス重視の関係強化は、地域協力の最も持続可能なモデルの一つとなる可能性があります。

まず「B5+1」といわれる、中央アジアと米国のビジネス優先パートナーシップについてお話しします。中央アジア5カ国と米国がビジネスパートナーとして関与するB

5+1構想は、地域協力におけるより広範な転換、つまり外交主導の枠組みから民間主導の統合を反映しています。従来の政府中心の仕組みとは異なり、B5+1はビジネス、投資、起業家精神を地域連携の中心に置いています。B5+1の実践的意義としては、「B5」は中央アジア5カ国の民間分野での協関係を表し、「+1」は米国を意味します。米国は市場であり、かつ資本と技術の供給源、そしてグローバルビジネスの基準設定者としての役割を指しています。重要なのは政治的な連携ではなく、貿易円滑化、投資環境整備、中小企業成長、国境をまたぐバリューチェーンです。

なぜ米国が「+1」の役割を担うのかというと、ビジネスの視点で米国がもたらすことが多いからです。奥行きのある民間資本市場と機関投資家、そして複雑な地域での事業運営経験を有するグローバル企業が存在します。また強力なコンプライアンス・ESG・ガバナンス基準、技術・金融・起業家精神を結びつけるイノベーションエコシステムを有しているからです。中央アジア5カ国にとって、これは資金調達だけでなく、ビジネスの構造化・拡大・ガバナンスへのアクセスを意味しているのです。

【グルスム・アクタムデルドウィーバ リーム中産連】
(月曜日に掲載)